

学力きらめきプラン



～学力状況・生活状況の分析と今後の取り組み～

4月・5月に行いました篠山市学力生活習慣調査、並びに4月に行いました全国学力学習状況調査の結果をもとに、平成30年度版篠山中学校「学力きらめきプラン」を作成しました。

生徒一人ひとりはずばらしい力を持っています。そのすばらしい力を認め、引き出し、高めることこそ学校の使命です。私たちは、篠山市及び全国の調査をもとに、よく頑張っていること、現在の課題、そして今後の取り組みについてまとめました。これを保護者の皆様に配布させていただき、家庭と学校とが良きパートナーとして、お子様の学力向上、生活習慣の改善に努めて参りたいと考えております。

どうか「学力きらめきプラン」をご理解いただき、より一層のご協力とご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

1 学校全体としての学力向上に向けた取り組み

学力調査、生活習慣・学習状況調査、学校評価をもとに、学校全体として次の取り組みを進めています。

(1) 授業の改善

・「篠山中学校がめざす授業」の深化

平成30年度 篠山中学校がめざす授業

- 1 「目標（めあて）」の提示
 - ・具体的な目標
 - ・「目標（めあて）」イコール「まとめ（振り返り）」
- 2 本時の授業の流れを提示
 - ・カード等で簡易で分かりやすく視覚支援
- 3 活動（作業）の時間（個人思考）
- 4 協同の時間（ペア・グループワーク）
【約束】
 - ・協同の時間の前には必ず個人思考の時間をつくる。
 - ・グループワークは4人グループを原則とする。
(男子だけ、女子だけのグループはつくらない)
 - ・机はくっつける。
 - ・役割分担を明確にする。(司会進行、記録、発表、時間、ムード係など)
※机の場所で教師が機械的に決めたり、カードを使って決めたりしてもよい。
 - ・協同の時間は、教師は話し合いの支援をする。話し合いを遮らない。
 - ・生徒が発表している時の目線、うなずきが重要である。
- 5 発表（表現）の時間
【約束】
 - ・教師への語りかけではなく、生徒への語りかけにする。(座席の工夫)
 - ・ホワイトボード、視聴覚機器の使用で視覚に訴える発表などの工夫をする。
- 6 まとめ（振り返り）
 - ・目標（めあて）が達成できたかをチェックする。
 - ・そのためにも目標（めあて）は具体的にする。
 - ・発表をもとに本時に気づいたことを確認し、整理する。

・次の時間の学習を予告し、予習課題を与える。

- ・全教師が年間1回以上の研究授業の実施
- ・「授業の約束」の改定（全教室に掲示）

篠中の授業の約束

【基本の約束】

- ・準備完了 ・チャイムで開始 ・元気なあいさつ
- ・「はい」の返事 ・相手を見て伝え聴く

①授業をつかむ

- ・授業の「目標」と「流れ」を知る

②挑戦する

- ・自分で考え、やってみる

③人と交流し、深める

- ・ペア・グループで深める
- ・相手を見て、考えを伝える
- ・相手を見て、考えを聴く
- ・まとめ、発表する

④振り返る

- ・学習ポイントの理解 ・宿題の確認
- ・次の授業を知る

（２）家庭学習の充実

- ・家庭学習の時間の定着（めやす）
1年生1時間40分以上 2年生1時間50分以上 3年生2時間以上
- ・自主学習ノートの充実
- ・各教科より予習・復習の提示

（３）個別指導の充実

- ・3年生「放課後がんばりタイム」（数学・英語 週2回放課後学習会を開催）
- ・中間テスト、期末テスト前の放課後、質問ルームの開設（検討中）

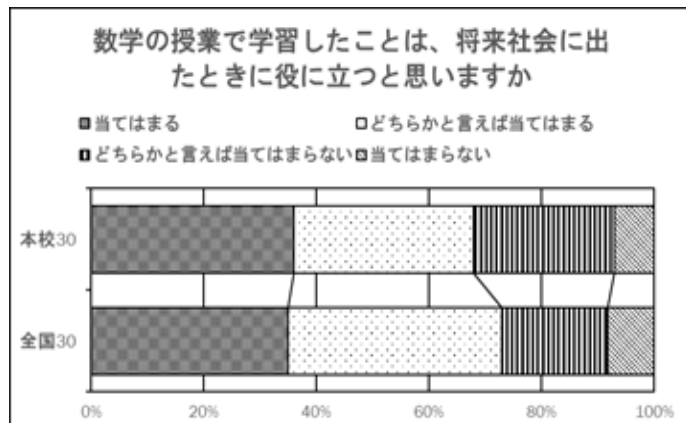
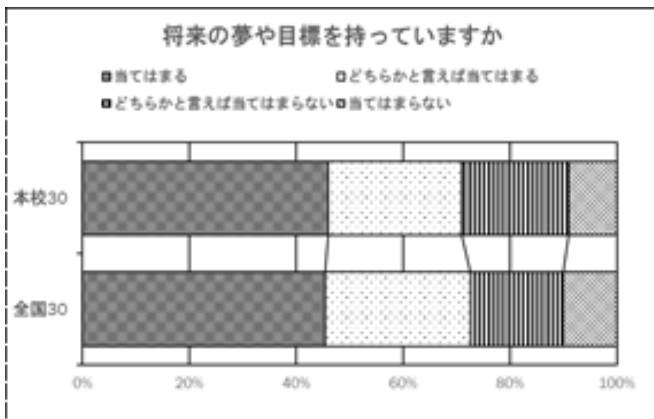
（４）読書の充実

- ・朝読書の充実（昨年度5分→今年度10分）
- ・全クラス、学期に1回「読み聞かせ」の実施



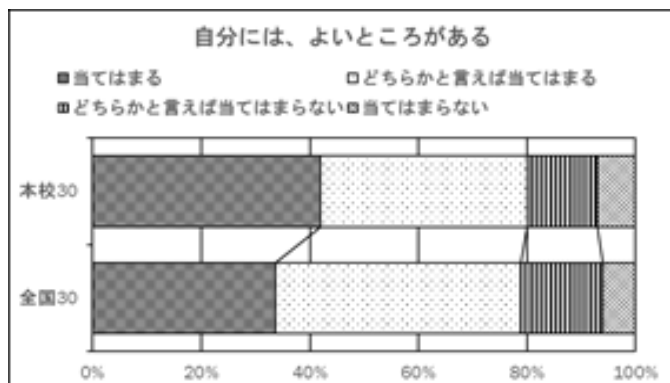
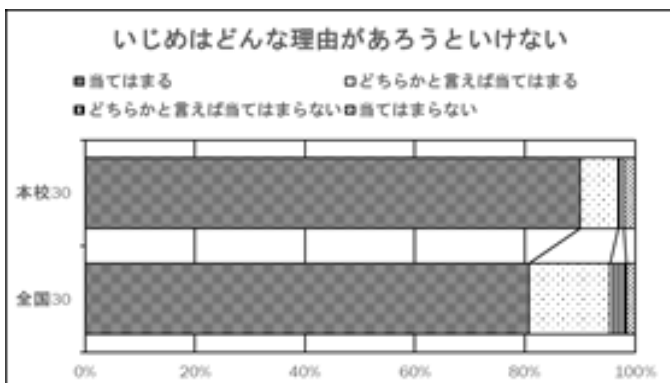
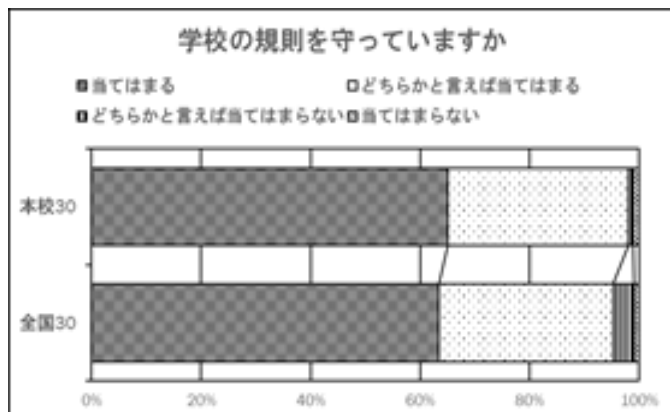
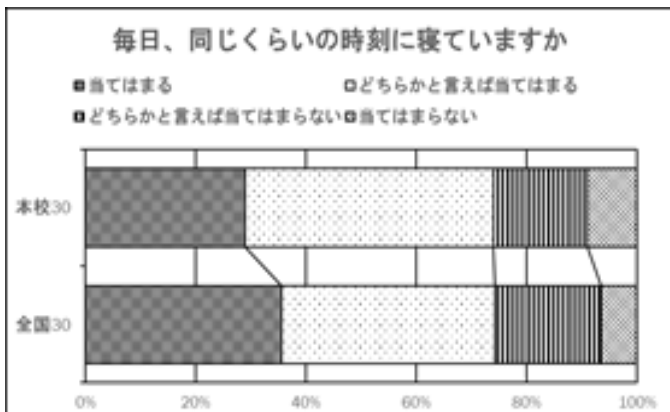
2 全国学習状況調査より（3年生で実施）

(1) ゆめ力（将来展望を持ち努力できる力）



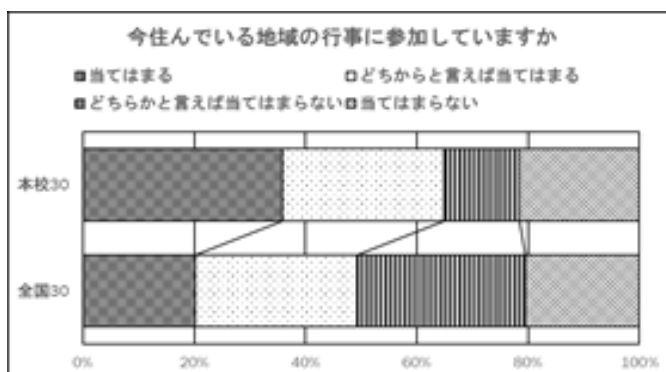
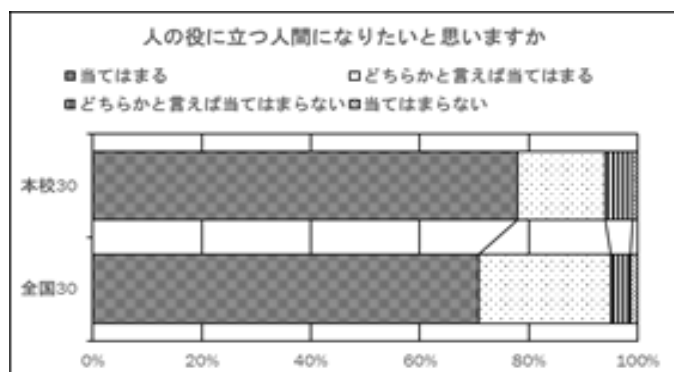
将来の夢や目標を持つことは、自らの力を伸ばす上で欠かすことのできないものです。本校生徒は、夢・目標が定まっていない生徒が約30%おり、若干多いように思います。また、学校での学習と将来の夢・目標とのつながりが弱く、それが学力が伸びきらない原因になっているようです。本校ではキャリア教育に取り組んでいます。学校の学習はテストで得点を取ることが目的でなく、将来に役に立ち、将来と繋がっていることを指導していきます。ご家庭でも、将来の夢や目標についてお子様とお話をしてください。保護者の皆様の生き方をそのものがキャリア教育の基本だと考えています。

(2) じぶん力（規範意識を持ち、自分をコントロールできる力）

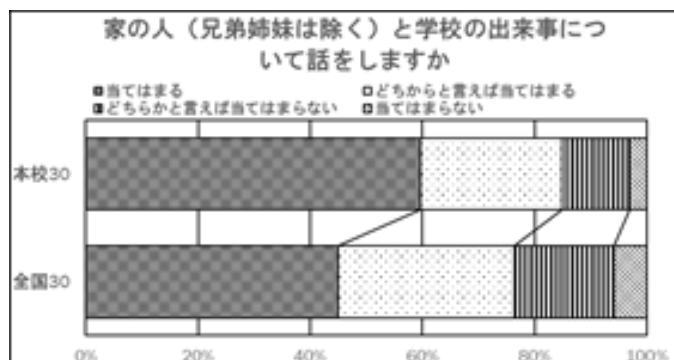


自分は認められている、自分は愛されているという自尊心は年々高まっています。人との比較ではなく、生徒個々の良さや成長を認め、褒める言葉がけをしてきた結果だと思います。また、学校の規則を守ろうとする規範意識、いじめを許さないという意識は非常に高く、家庭、地域、学校が一体となって子どもを守り育てるネットワークができている結果だと思います。ただ、就寝時刻から分かるように、家庭での時間の過ごし方については課題があります。スマホ、コンピュータの所持率は都市部と変わらず、情報機器の取り扱いが就寝時刻の不安定さに繋がっていると思います。まずは、ご家庭で情報機器取り扱いの約束を決めてください。また、大人が情報機器取り扱いのお手本を見せたいものです。

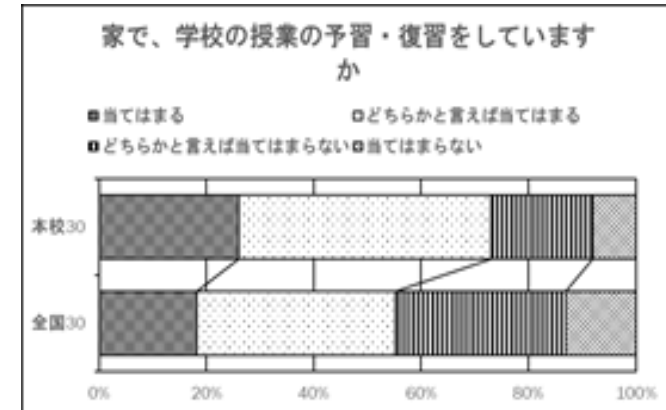
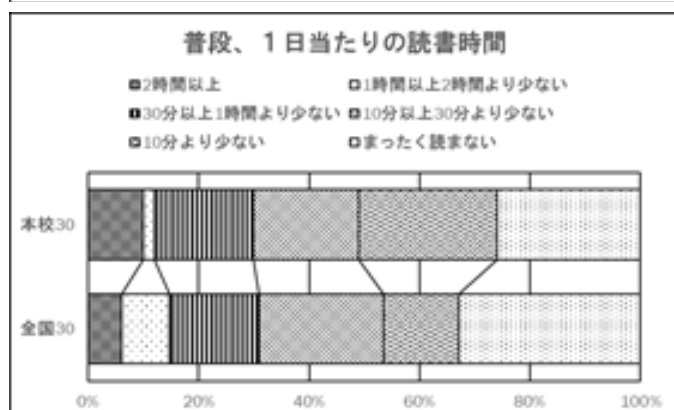
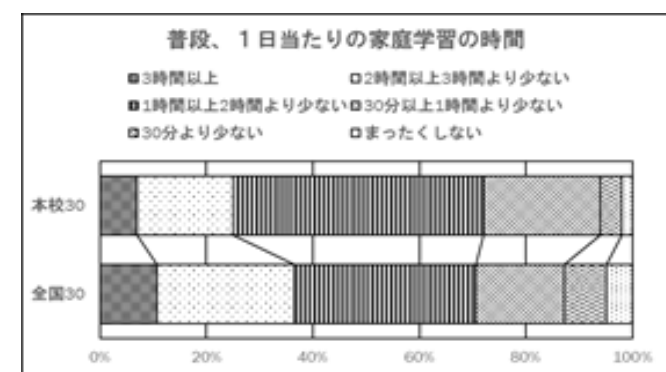
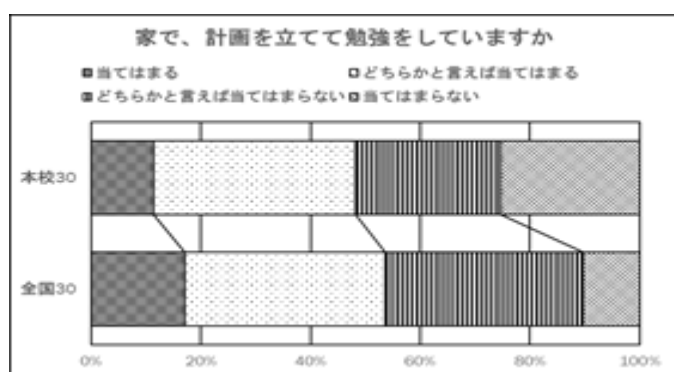
(3) つながり力 (他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力)



地域行事に参加している生徒が多く、家庭で話をしている率もとても高いです。校区においては、家庭・地域のコミュニティは確実に機能しており、生徒は温かい家庭・地域の中で多くの人とつながり、見守られ、育てられていることがわかります。それが人の役に立つ人間になりたいという率の高さにつながっています。学校においても、学級、部活動、学校の集団の中で、友を大切に、お互いに高め合う温かい風が流れています。ただ、情報機器によるつながりではなく、人と面と向かって言葉でつながることを大切にしていきたいと考えています。



(4) まなび力 (学校の授業で意欲的に学び力)



本校の生徒は、学校から与えられた宿題、予習、復習は確実にやろうとします。しかし、約50%の生徒は計画を立てて自主的に学習に取り組むことが十分にできていません。また、約50%の生徒は1時間から2時間の学習、約30%は1時間以内の学習に終わっています。与えられたことはするが、自ら進んで取り組むことはできていない傾向にあります。本校には「自主学习ノート」があり、自らのペースで学習に取り組むようにしています。これをより自主的な取り組みへと発展させていきたいと考えています。まずは、家庭学習時間の確保(1年生は1時間40分以上、2年生は1時間50分以上、3年生は2時間以上)をしていきます。家庭でも様子を見守っていただきますようお願いいたします。

3 各学年の取り組み

～篠山市生活習慣調査より～

【1年生】

【学年の概要】

自己認識、社会性、学級環境、生活・学習環境の四つの大括りのカテゴリで標準スコア（事前調査で全国的に偏りなく採集したデータをもとに、質問ごとに全国平均を50とする偏差値としたときの、カテゴリごとの本校の全質問の偏差値の平均値）を見た時、どのカテゴリも大きく全国平均を割り込むことのない結果となっています。

4つのカテゴリ内を数値で比較してみると、自己認識のスコアが他のカテゴリよりやや低く、社会性や学級環境のスコアが高くなっています。調査の実施日が5月下旬であったことを考慮すると、中学校進学後の新しい環境の中であって、まだ成功体験や感動体験を味わうことも少ない中で、自己や他者に対する理解が未熟で、そこに不安を感じながら生活している生徒の状況が見て取れます。また、全体的に高い値を得ている学級環境のカテゴリ内にある「対人ストレス」に関するスコアが低いところからも、このことが見て取れます。

社会性と学級環境のカテゴリはスコアが高くなっています。新入生として新しい環境で頑張ろうという意欲の表れでもあり、社会性の「規範意識」や学級環境の「学級の規範意識」「学級の絆」に関する肯定の値が非常に高く、これらのことを考え合わせると、新しい学年、新しいクラスの中で、みんなで学年やクラスのルールを守ってよい学年にしていこうという、旺盛な意欲を持って生活する生徒の状況が見て取れます。

総合すると、中学校に進学して自己や他者とどのように向き合っていけばよいのかという不安を持ちながら、一方で、新しい環境の中で周囲と協力し合いながらよい集団にしていきたいという希望を持って生活している様子が数値からうかがえます。

【自己認識に関して】

「自己認識」カテゴリの『友だちのささえ』で「あなたの気持ちを分かってくれる友だちがいますか」の肯定率（本校の肯定した生徒の割合）が全国平均より5ポイント近く低く、逆に「あなたががんばったとき、友だちから、がんばったね、すごいねと、ほめてもらったことがありますか」の肯定の回答が5ポイント高くなっています。また、『先生のささえ』「自分なりにがんばったとき、先生が認めてくれて、うれしかったことがありますか」、「あなたの気持ちを、分かろうとしてくれる先生がいますか」の肯定の回答が両方とも5ポイント以上高くなっており、これらの数値から、新しい環境の中でやや不安はあるものの、友だちや先生との日々の生活の中で、少しずつ関係が深まっている状況がうかがえます。さらに、「将来の夢や目標がありますか」に対する肯定率が全国平均より8ポイント高く、具体的な将来の夢や目標を描きつつ生活している状況もうかがえます。

【社会性に関して】

社会性に関しては、高い肯定率の質問が多く、『規範意識』で「地域であいさつをしていますか」13ポイント、『思いを伝える』で「友だちの成功や失敗を、一緒になって喜んだり悔しがったりして言葉や態度で伝えられますか」が5ポイント、「話し合いで自分の意見が言えますか」「学校生活で自分の意見の発表や質問をしていますか」は双方とも8ポイント程度高く、「クラスの他の人と意見が違っても、正しいと思ったことは主張できますか」は13ポイント全国平均を上回っていました。これらも、正しいことは正しいのだから、周囲と協調しながら正しいことを推し進めていきたいという協調・協働する気持ちや正義感の表れととることができます。

【学級環境に関して】

『学級の規範意識』で「あなたのクラスは当番活動など責任をもっておこなっていますか」「あなたのクラスは先生の言うことを守っていますか」、「学級の絆」で「クラスの中でだれかが困っているとき、みんなでその人を助けたりはげましたりする雰囲気がありますか」「先生はクラスみんなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれませんか」の肯定率はすべて12ポイント程度全国平均を上回っており、生徒と生徒、生徒と教師が共に認め合い、支え合おうとしているクラスの状況が見て取れます。ただし、「クラスの人かふざけたり、おしゃべりをしたりして授業に集中できないことがありますか」の問いについては全国平均を16ポイント程度上回っており、1学期最後の学年集会で学級委員長が発表していた「授業に集中できない」という内容を裏付けており、2学期以降、学年の生徒と教師で取り組んでいくべき大きな課題となりました。

『対人ストレス』で「仲間はずれがこわくて、友だちの意見に合わせたり行動したりすることがありますか」「仲のいい友だちからどう思われているか気になることがありますか」は、双方とも5ポイント程度高くなっており、親交が浅いクラスの成員の中で、思春期独特の不安も感じながら生活している様子がうかがえます。

【その他に関して】

問いと結果だけ掲載します。回答は回答数の多い方から1位2位…と表示しています。

()内は全国平均のパーセンテージです。

(1)あなたの今の、1番目の悩みごとは何ですか。

- 1位 勉強のこと 39.3% (32.7%) ※全国平均の1位は「とくにない」
 2位 とくにない 22.3% (35.0%) ※全国平均の2位は「勉強のこと」
 3位 習い事やクラブのこと 10.7% (8.6%) ※全国平均の3位は「友だちとの人間関係」
- (2) あなたの今の、2番目の悩みごとは何ですか。
 1位 とくにない 35.7% (51.6%) ※全国平均の1位は「とくにない」
 2位 習い事やクラブのこと 18.8% (9.2%) ※全国平均の2位は「勉強のこと」
 3位 勉強のこと 17.9% (11.8%) ※全国平均の3位は「習い事やクラブのこと」
- (3) あなたは、一人でいるときが好きですか、みんなといっしょにいるときが好きですか。
 1位 (どちらかと言えば) +みんなといっしょ 78.6% (75.8%)
 2位 (どちらかと言えば) +一人の方 21.4% (23.8%)
- (4) あなたは地球上でたった一人の、あなたのことを大切に思っている人々にとって、かえがえのない存在であるということを知っていますか。
 1位 なんとなくわかっている 42.0% (33.1%) ※全国平均の1位は「それはよくわかっている」
 2位 それはよくわかっている 41.1% (40.5%) ※全国平均の2位は「何となく分かっている」
 3位 実感がない 13.4% (19.8%) ※全国平均の3位は「実感がない」
 4位 とてもそうは思えない 3.6% (6.2%)
- (4) については、今後の授業の様々な単元で、考え、実感できるようにしたいと考えています。

【生活・学習習慣に関して】

『生活習慣』で「朝食は毎日食べていますか」の回答は、「毎日しっかり食べている」75.0% (79.4%)、「毎日何か口に入れる程度」11.6% (10.9%)、「食べたり食べなかったり」11.6% (7.1%)、「ほとんど食べない」1.8% (2.4%)となっています。学年の約4分の1の生徒(29名)が、毎朝しっかり朝食を食べていないこととなります。また、「テレビ、ゲーム、ネット等、1日の遊び時間はだいたいこれくらいと決めていますか」という問いに対しては、肯定率が全国平均を12ポイント上回っており、自己管理できている生徒が多いことが分かります。『学習環境』で「週に何日くらい勉強していますか」「家庭学習は自分で計画を立てていますか」「1日の勉強はこれくらいとめやすを決めていますか」「テストで間違えた問題は、あとでやり直していますか」「分からない言葉があるときは辞書等で調べますか」の5つの問いに対する肯定率は5～20ポイント全国平均を上回っています。家庭学習について、基本的には宿題に毎日取り組み、塾も含めてほしい1日に2時間程度学習している生徒が多いようです。ただし、授業の予習と復習にかけている時間はやや少ないという結果でした。

【調査から見えてくる学年の姿】

1年生は、篠山中学校に進学して、自己や他者とどのように向き合っていけばよいのかという手探り状態の中、一方で、新しい環境で周囲と協力し合いながら、よりよい集団にしていきたいという希望と意志を持ちながら生活しているようです。そして、時期的に親交が浅いクラスメイトの中で、自分がどう思われているのかという思春期独特の不安も感じながら、友だちや先生と生活し、その中で、少しずつ相互の関係に深まりが生まれつつあることを実感してきています。また、そのような集団の中で、正しいことは正しいのだという正義感を持ち、周囲と協調・協働しながら正しいことを推し進め、生徒と生徒、生徒と教師が共に認め合い、支え合う学級づくりを目指しています。

学習については、具体的な将来の夢や目標を描きつつ生活や学習に取り組んでいます。家庭学習は自己管理できている生徒が多く、宿題や塾の学習に毎日2時間程度取り組んでいます。ただし、授業の予習と復習に取り組むことや、日々の授業では集中して授業に取り組むことが今後の課題です、

あくまで、調査結果から浮かんでくる平均的な1年生の姿ですので、あてはまらない生徒も多いと思います。しかし、平均的な1年生の姿を意識することで、各家庭のお子様の様子と比較することもできます。ご一考願えれば幸いです。

【2年生】

【よく頑張っていること】

すべての項目において全国平均よりも高い評価の結果が出ています。特に、近所の人とのあいさつ、友だちとの好ましい人間関係、家庭での学習習慣については、全国平均を10ポイント以上も上回る結果でした。また、本音で相談できる友だちの存在、将来への目標や夢、クラスの中での自分の存在意義、授業中の発表、助け合い励まし合える学級の姿なども、全国平均を10ポイント近く上回る結果でした。他にも、地域行事への参加、家族の中での自分の存在価値、自分の努力への評価、自信を持った生活などの質問に対しても全国平均を5ポイント程度上回っています。

個々の質問を内容ごとに整理すると、『家族の支え』『友だちの支え』『充実感と向上心』『規範意識』『学級の絆』『対人ストレス』において、平均よりも高い評価となっています。

【課題】

全国平均を上回ってはいるものの、その中でも比較的低い評価となっている項目は、自分の長所の自覚

が不十分、授業に集中できない、家庭学習が無計画、わからないことを自分で調べようとしなないなどが挙げられます。これらの質問に関しては、全国平均を5ポイント程度下回る結果となりました。

全質問を項目別に分類すると、『社会参画』『学習習慣』『生活習慣』『先生の支え』『思いを伝える力』『成功体験と自信』『感動体験』の項目において全国平均と同等ではあるものの、篠山中学校2年生としての課題ではないかと考えられます。

【今後の取り組み】

- 家庭での学習習慣は全国平均を大きく上回っているものの、その学習の時間配分や学習内容については無計画のままに進められている様子が見られます。何をどのように学習すべきなのか、授業の中での家庭学習に対する指導が必要と考えます。
- 学級での人間関係については、友だちに支えられ、励まされ、何でも相談することができるなど、良好な人間関係が築けているようです。しかしながら、自分が頼りにされていると感じない、自分の長所が自覚できていないなど、他者を認めることができても自己肯定ができない状況にあると考えられます。学校や学級、家庭、地域などで、些細なことであっても認め、褒める指導を強化すべきだと考えます。
- 学習ばかりに重きを置かず、様々な生活体験を積み重ね、その中で感動や成功を数多く体験させ、自分の頑張りを自分自身で認め、他者にも認められ、そのことを通して自信へとつなげていきたいと考えます。

【3年生】

【よく頑張っていること】

- 「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習習慣」のすべての肯定的回答が全国平均よりも上回っています。
- 家族はかけがえのない存在である、辛いときには家族に相談できる、家族は自分の気持ちをわかってくれ、家族は自分が努力して頑張ったときほめてくれる等の問いに対して肯定的な回答が多く、家族に支えられて生活していると感じている生徒が多いです。90%の生徒が家は心が安らぐ場所だと回答しています。
- 自分が辛いとき、困ったときに相談できる友だちがおり、また自分の努力を誉めてくれる友だちがいる等、良好な友だち関係が築いています。
- 先生から認められて嬉しかったことがあり、自分の気持ちをわかろうとしてくれる先生がいることがわかります。
- 80%以上の生徒が毎日朝食を食べており、自分で起きている。起床時間、就寝時間も規則正しく、良い基本的な生活習慣が身についています。

【課題】

- クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見が違っても、自分が正しいと思ったらそれを主張したり、意見が合わなかったときに説得したりすることは苦手意識を持っており、思いを伝える力の肯定回答は全国平均を下回っています。
- 学校生活の中で、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりする生徒の割合が低いです。
- 友だちから自分がどう思われているか、友だち内での話題についていけるか、知らない話題に不安を感じるなど、ストレスを感じている生徒が全国平均よりも多いです。

【今後の取り組み】

- 学校生活において、生徒一人ひとりに多くの経験を積ませることが大切です。その経験や体験を通して他者との関わりを学び、自分の思いを言葉で伝えることにつなげていきます。
- 体育祭や文化祭、授業や家庭での生活において、一人ひとりが自らの役割を考え積極的に活動・活躍できる機会を用意します。
- 周囲に流されず、正義を持って物事に向き合う姿勢の大切さを理解させていきます。
- 進路決定を一つの契機として、真の自分と向き合い、自分らしく生きることの大切さを指導していきます。
- 学習に取り組むことは進路決定だけのものではなく、なりたい自分に近づくための一つの方法であることを理解させます。また、諦めずに自己をはぐくむことの大切さを知らせていきます。